

第9号  
2007.3

# NEWS LETTER

東邦大学看護研究会事務局 〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20 TEL.03-3762-9881 FAX.03-3766-3914

## 第6回 東邦大学看護研究会 学術交流会を終えて

### ●メインテーマ: 病院と地域をつなぐNN(看・看)連携

運営副委員長  
東邦大学医療センター大森病院  
副看護部長 菊地 京子



平成18年12月16日(土)に上記メインテーマで学術交流会を開催致しました。参加者は237人でした。本年度の診療報酬改定は4つの視点から行われました。その一つに「質の高い医療を効率的に提供するために医療機能の分化・連携を推進する」があります。大学病院という急性期医療を担っている私たちは、病院と地域の連携を意識して看護をしてきたのでしょうか。今回改めて考えるチャンスを得ました。しかし、出席者が昨年より少なかったのは会員の皆様の期待とテーマに少しずれがあったのかとも感じています。

一般演題は30題で、臨床や教育現場での実践的な内容でとても有意義でした。特別講演は市民活動家の石川左門様に、医療が必要な人が地域で生活する時に病院や看護にどういう支援体制を求めているのか等について、具体的な事例を基にお話しいただきました。「病院と地域の両方から看護の専門家に支援してほしい」と言う言葉はとても印象に残っています。

シンポジウムのテーマは「病院・地域における看

護の連携」としました。

病院地域医療連携部の石橋みゆき様から「生活を支えるための院内・地域連携」、ケアプランセンターの介護支援専門員の岡田洋子様から「住み慣れた地域での在宅生活につなぐカンファレンスの有効性について」、訪問看護ステーションの佐々木静枝様から「病院と地域看護の連携と現状と課題」と、違う立場のかたから実際の事例を基にお話を伺い、会場の質問に対しても熱く語っていただきました。地域の看護を身近に感じることができました。

今年度は新たな試みとして、モーニングセミナーを企画にしました。看護学科の高木先生と林先生に看護研究の基礎についてお話しいただきました。朝早くからのスタートでしたが、教室は参加者で一杯の盛況振りでした。

今回の学術交流会が東邦大学の看護の実践に活用していただけることを、期待しております。

最後に学術交流会にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

# 第6回 東邦大学看護研究会学術交流会

## メインテーマ「病院と地域をつなぐNN連携」

●特別講演

### 「患者団体が歩んだ 保健・医療・福祉の軌跡」

講師

石川 左門氏

(社会福祉法人 創隣会 理事長)



●シンポジウム

### 「病院・地域における看護の連携」

石橋みゆき氏

(千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部)

岡田 洋子氏

(社団法人 川崎市看護協会ケアプランセンター)

佐々木静枝氏

(世田谷区 社会福祉事業団 訪問看護ステーションけやき)



## 第6回東邦大学看護研究会シンポジウムに参加して

東邦大学医療センター大森病院 山本 由香

「病院・地域における看護の連携」では、大学病院看護師、地域における介護支援専門員、訪問看護ステーション看護師、それぞれの立場から病院と地域との連携に関する具体的な活動内容を伺うことができました。

現在、人口の高齢化や少子化、医療費の拡大といったわが国の背景より、医療制度上、入院期間の短縮が求められています。しかし、単に早期退院を目指すことで、再入院や転院を繰り返すという状況に陥ることも懸念される現状にあります。患者様やご家族が安心して、住み慣れた地域での療養生活を送るために、病院と地域の連携を実践されておられる講師のみなさんのお話しさは大変興味深いものでした。

私は外来において糖尿病患者様の療養生活支援を主に携

わっております。外来での療養支援も入院中の退院支援と同様に、いかに地域での生活をイメージして援助計画が立てられるか、想像力が重要だということを感じました。また、地域との連携において架け橋となるサマリーに、地域で患者様を支援される側の求めている情報が記載されていないという現状を知ることが出来ました。サマリー内容としては、具体的な医療処置方法のみならず、日頃のバイタルサインや排泄パターン、入院中のアクシデントなども必要であり、活用できるサマリー作成が病院看護師に期待されておりました。

そして、今後の退院支援においては、個人の退院支援に関する知識・看護の質の向上と共に、病院全体のシステム構築が求められていると改めて感じられました。

# モーニングセミナーを終えて

モーニングセミナー担当 東邦大学医療センター大森病院 富井 秋子

平成18年12月16日、第6回東邦看護研究会学術交流会が無事終了しました。今回初めてモーニングセミナーを開催致しました。企画・運営は各施設の代表6名が集まり、試行錯誤で行いました。

1つ目のセミナーは「看護研究計画立案の基礎」というテーマで、看護学科国際保健看護学研究室教授の高木廣文先生、2つ目のセミナーは「論文の書き方と文献検索」というテーマで、看護学科成人看護学研究室助教授の林直子先生に講師をお願い致しました。希望者が多く、直前に教室の変更が必要になったことは、担当者としては嬉しい悲鳴でした。

セミナーのテーマは、研究に関する十分な知識を持ってい



ない私には最適の内容でした。

日頃「おや?なぜ?どうして?」と思いながら、研究取り組みへの一歩が踏み出せないでいる私達には、方向性を見出せる内容でした。

当日は、早朝開始にも関わらず、2つのセミナーとも53名が参加し、教室も満員御礼でした。看護界では大学化が進み、専門職として研究に取り組み、看護の質向上が求められています。今回のセミナーに参加された方が看護研究に取り組み、1人でも多くの方が第7回の東邦看護研究会学術交流会で発表されることを期待しています。そしてこのモーニングセミナーを是非継続していただきたいと考えております。



## モーニングセミナーに参加して

東邦大学医療センター大橋病院 小野 裕子

今回、モーニングセミナーに参加させていただき、研究についてのイメージが大きく変わりました。今まででは、堅苦しく難しいイメージを持っていましたが、全ては私たちの日頃感じている疑問から始まり、それを明らかにしていく過程なのだと感じました。

林先生の講義は、研究に関わる難しい用語をとても分かりやすく説明してくださいました。聞いていて「こういうことだったのか」と用語の意味を捉える喜びを感じられるものでした。短い時間でしたが、研究デザインや文献検索、論文の書き方などについて多くの学びを得ることができました。看護研究の発表の場でこのような看護研究についての知識を振り返ることができ、とてもよかったです。日々の業務の中では専門の講師の方に教えていただく機会が少なく、看護研究についての基礎知識があやふやなままでしたが、今回このような勉強会に参加することで看護研究についての知識を深めることができました。今回の学びを今後の看護研究に活かしていくたいと思います。

## モーニングセミナーに参加して

東邦大学医療センター佐倉病院 大場 瞳

これまで看護研究には大変興味があった。しかし、研究をどのように進めたらよいのか分からずについた。今回『論文の書き方と文献検索』のモーニングセミナーに参加し、日々の看護業務の中の疑問を研究として進めていく方法について学ぶことができた。

看護研究を行うにあたり最後まで目的を見失ったり、迷ったりしないことが重要である。そのため「何が知りたいのか?」、「調べて解決するものなのか?」などよく吟味し、はっきりさせておくことが必要である。次にその疑問について先行研究から調べることである。そのためには、文献検索を行う必要があります。セミナーでは医学中央雑誌WEBからの検索方法が説明された。後日実際にWEBから検索してみたが短い時間で調べることができ、臨床においても看護実践に生かせると感じた。今後は日常に多くの疑問を研究テーマとして、取り組んで行きたいと考える。

## ワンポイント看護研究(2) 研究目的と研究デザイン

東邦大学医学部看護学科国際保健看護学研究室教授 高木 廣文

日頃感じたり、やりたいと思っていたりすることを、具体的な文章にするのは結構大変である。やっとのことで、「タイ王国に100万人はいると言われているHIV/AIDSと共に生きる人々に対して、看護師が抱いている想いはどのようなものかを明らかにする」のように、研究目的を考えたとしよう。

研究は実際に実施できなければ意味がないので、この研究目的に沿って研究を実施するために、次のステップとして決めねばならないことがいくつかある。研究のためには、どのような施設や場所で働いている看護師を対象にすればよいのだろうか。バンコクのような大都市の病院に勤務する看護師か、地方の地区病院の看護師を対象とするのでは、かなり状況が異なるのではないだろうか。またタイ北部では、HIV/AIDSと共に生きる人々がグループ活動を行っており、地区病院ではその活動拠点としてディケアセンターがある。治療薬の配布や健康相談などもディケアセンターで行っているので、ディケアセンターに勤務する看護師を対象とすることにしよう。

調査方法や調査内容はどのようにすればよいのだろうか。研究目的を実現できるように調査方法を決める必要がある。通常はインタビューにより、研究に必要な情報を収集するか、適当な質問紙を用いた調査を行うかのどちらかである。インタビューでは、よほどタイ語に優れていなければ、通訳が必要だろう。質問紙調査を行うにしても、日本語からタイ語への翻訳が必要である。通訳を雇う場合には、そのための費用が必要となるし、翻訳のためのある程度の日数が必要である。ここでは、まず5,6名の看護師に通訳を交えてインタビューし、HIV/AIDSと共に生きる人々にどのように感じながら、看護を行っているかを聴取することに決めたとしよう。このためにかかる経費、すなわち旅費、宿泊費、通訳および翻訳費、調査への謝金なども計算しておく必要がある。その額が予想以上に大きければ、外部資金の調達なども考慮しなければならない。資金調達が困難な場合には、研究計画を変更しなければならないだろう。

研究目的を決めると、このように研究対象や研究方法も決まってくるし、逆に、調査対象や調査方法によって、研究目的を若干変更する必要が生じるかもしれない。研究目的をあまり堅く考えすぎていると、自由な研究の障りになりかねないので注意が必要である。

### 東邦大学看護研究会に入会しませんか?

年会費：2,000円

年1回の看護研究学術集会（毎年12月 第3土曜日）

年2回のニュースレターの発行

研究会が発足して7年目を迎えます。最も身近な看護研究会です。

施設を越えて交流ができ、沢山の学びがあります。



### 編集後記

桜のつぼみが膨らみ始め、フレッシュマンの看護師達がもうすぐ職場にやってきます。

自分が新人だった頃を思い出し、初心忘れずに取り組んでいきましょう。

今回から開始したモーニングセミナーは大変盛況で、看護研究に対する意欲が大変高く、来年が楽しみですね。

担当者

### 第9号ニュースレター事務局

東邦大学医療センター佐倉病院 鈴木 康美

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564-1

TEL 043-462-8811(代表)

E-mail: kangobu@sakura.med.toho-u.ac.jp